

未来社会を感じる、心躍る世界の旅へ

国内・民間パビリオンをご紹介します！

日本館



提供：
経済産業省

「いのちと、いのちの、あいだに」をテーマに、万博会場内の生ゴミを利用したバイオガス発電や、世界に貢献しうる日本の先端的な技術等を活用し、一つの循環を創出し、持続可能な社会に向けた来場者の行動変容を促す。

大阪ヘルスケアパビリオン



提供：
(公社)大阪パビリオン

「REBORN」をテーマにミライの大阪の可能性を感じることが出来る展示体験を提供。パーソナルヘルスレコード（PHR：個人の健康等に関する情報）をもとに生まれた2050年頃のあなたと出会う。

電力館 可能性のタマゴたち



提供：
電気事業連合会

社会の基盤を支える電力業界ならではの視点で未来社会を描く。エネルギーに関する“可能性のタマゴ”を数多く体験することで「エネルギーの可能性で未来を切り開く」ことを感じられる。

飯田グループ×大阪公立大学共同出展館



提供：
飯田グループホールディングス株式会社

西陣織の生地を全面にまとった外観のコンセプトは「サステナブル・メビウス」。伝統と進化が融合したパビリオンでは、新技術によって健康的で快適に暮らせる「未来型住宅」や「まちづくり」を紹介する。

GUNDAM NEXT FUTURE PAVILION



提供：
株式会社バンダイナムコホールディングス
©創通・サンライズ

未来のスペースエアポートをイメージしたパビリオンでは、「ガンダム」の世界観を感じられる演出を行う。「ガンダム」を通して世界中の人々とつながり、ともに「未来」を考えるきっかけの場となることを目指す。

ORA外食パビリオン『宴～UTAGE～』



提供：
(一社)大阪外食産業協会

「熱量のある外食」が必要だという考えのもと、あたらしい外食のあり方を、世界に「宴～UTAGE～」として定着させ、5つのアクションである、おもてなし、食体験、新境地、賑わい、外食産業の発展を目指す。

2025年大阪・関西万博 見どころ紹介！

本記事は、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会のパンフレット、HPに基づき作成しております。
画像はイメージです。実際の会場とは配置・建物形状が一部異なる場合がございます。また本画像の無断転載・複製は一切お断りします（提供：2025年日本国際博覧会協会）。

大阪・関西万博って？

2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）は、2025年4月13日から10月13日までの184日間、大阪の夢洲で開催される。日本での開催は2005年の愛知万博以来20年ぶり6回目。160を超える国・地域と国際機関が参加を表明しており、会期中に約2820万人の来場を想定している。

テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」。日本政府や大阪府・市、民間企業などの国内パビリオン27施設のほか、ドイツやイタリアなど海外パビリオンも独創的なデザインを施した建物や展示スペースを準備し環境技術などを発信する。

会場とその周辺は、空飛ぶクルマや水素燃料電池船といった次世代の移動手段が行き交う「未来」を体感できる場となりそうだ。

運営主体の公益社団法人2025年日本国際博覧会協会は、前売りで1400万枚の販売を目指す。同協会では各種特典が得られるお得な早割1日券などの事前購入を呼び掛けている。



[開催概要]

1. テーマ：「いのち輝く未来社会のデザイン」
2. サブテーマ：(1)Saving Lives (いのちを救う)
(2)Empowering Lives (いのちに力を与える)
(3)Connecting Lives (いのちをつなぐ)
3. コンセプト：People's Living Lab (未来社会の実験場)
4. 開催期間：2025年4月13日(日)～10月13日(月)の184日間
5. 開催場所：大阪 夢洲(ゆめしま)

※詳細情報は、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会のホームページをご確認ください。(URL: <https://www.expo2025.or.jp/>)
右記二次元コードをご利用ください。

